

## 『厳粛 盛大』 第4回卒業証書授与式挙行！

3月1日（木）、四ツ葉学園中等教育学校第4回卒業式が挙行されました。伊勢崎市長様、市議会議員様はじめ市議会議員の皆様、近隣区長の皆様など、たくさんのご来賓の方々にご出席いただき、第4期生を送り出す儀式を、厳粛な雰囲気の中で盛大に執り行うことができました。在校生の送辞は、先輩方への感謝と四ツ葉学園のさらなる発展に挑戦する新たな決意に満ち、卒業生の答辞は、温かく厳しく見守り続けてくれた方々への感謝と後輩達への期待と激励、そして、それぞれの新しい世界での飛躍を誓う力強さにあふれたものでした。学び舎を巣立つ卒業生122名にとって、四ツ葉学園での生活を締めくくる思い出深いひと時となりました。

### 答 辞

株立ちの春の訪れを感じさせる、この佳き日に、私たち四期生のために盛大な卒業式を挙行して頂きましたことを、心より感謝申し上げます。校長先生やご来賓の方々から温かい言葉を賜り、また、後輩の皆さんから心のこもった送辞を受けて、私たちがたくさんの方々から支えられてきたことを、しみじみと感じています。私たち四期生百二十二名は、六年間過ごしたこの学び舎から、今日、卒業します。



六年という時間はとても長く感じられましたが、気づいてみればあっという間に過ぎてしまいました。ここにいる四期生の仲間達と、もう明日からは今までのように毎日顔をあわせることがなくなると思うと、言い知れない寂しさを感じます。私達は毎日同じ教室で学び、たくさん言葉を交わしてきました。四ツ葉杯や体育祭ではお互いに熱く競い合い、関西伝統文化研修や海外グローバルリーダー研修、そして二度経験した文化祭ではたくさんのかげがえのない思い出を作りました。この仲間と出会い、友達になれたこと、そして今日まで共に成長してこられたことが本当に嬉しく、誇らしいです。明日から進むそれぞれの道が幸せなものとなるように、これからも前へ前へと歩み続けていくつもりです。後輩の皆さんともまた、部活動や委員会、行事などを通してたくさん時間を一緒に過ごしてきました。皆さんにはたくさん迷惑をかけましたが、これまで私たちについてきてくれたことをとてもありがたく思っています。また、皆さんが私たちと過ごす中で、変わって行く姿を間近で見られたことはとても嬉しいことでした。次に会える時、皆さんのまた新しい一面が見られることを楽しみにしています。

四ツ葉学園はもうすぐ創立から十年という大きな節目を迎えます。私たち四期生が入学した頃はまだ六学年が揃っていませんでしたが、今では毎学期、全ての学年でたくさんの方が多方面で活躍し、表彰を受けるような大きな活気ある学校となりました。生徒一人ひとりが努力し活躍しているということが四ツ葉学園の伝統となっているように感じます。この良き伝統を、どうかこれからも繋いでください。私たちそれぞれの幹となる部分を作ってくれたこの母校が、ますます意気軒昂な学校となることを願っています。

私たちは、これまでに離任された方を含め、たくさん先生方からご指導をいただけてきました。授業や部活動、委員会、行事、進路の相談など、どんな場面でも真剣に私たちのことを考えてくださり、私たちのことを導いてくださいました。先生方の丁寧で的確なアドバイスに何度も救われてきました。本当にありがとうございました。私たちはいよいよ先生方の元から巣立ちます。おそらく、これまでの学校生活で経験したことよりさらに難しいこと、苦しいことに幾度もぶつかると思います。しかし必ずそれらを乗り越え、次にお会いするときに、今よりレベルアップした姿を先生方にお見せできるように精進します。

そして何より、十八年間、私たちを支え励ましてくれたのは家族です。毎朝早くからのお弁当作り、汗で汚れたユニフォームの洗濯など、感謝の言葉を伝えてこなかったかもしれませんが、日々応援してくれていたことへのありがたさを、この卒業の日に改めて感じています。ぶかぶかの制服を着て入学した頃から、体は随分と大きくなりましたが、家族に対し素直になれず、心配をかけたこともたくさんあったと思います。それでも変わらず温かく見守り続けてくれたからこそ、私たちはこの六年を無事に終えられます。卒業して、私たちが自立できるようになったら、必ずこの恩返しをします。それまで楽しみに待っていてください。

慣れ親しんだこの愛する母校から巣立つことは嬉しい反面、四期生の仲間たちと、後輩たちと、先生方と、この学び舎と別れてしまうことが切なくもあります。しかし、卒業しても私たちは同じ空の下で繋がっています。卒業は、新たな生活、そして、新たな出会いの始まりです。私たちの可能性と溢れる未来を信じ、この四ツ葉学園での学びを信じ、四期の卒業生として恥ずかしくない年輪を重ねるべく、私たちは新しい世界に挑戦していきます。

平成三十年三月一日

卒業生代表 眞壁海斗

## 式 辞

厳しい寒さも和らぎ全身で春の訪れを感じることが出来る季節となりました。この佳き日に、伊勢崎市長様、市議会議長様をはじめとする、多数のご来賓の方々や保護者の皆様のご臨席のもと、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校、第四回卒業証書授与式を挙行できますことは、私ども関係者にとっても、大きな喜びでございます。改めて感謝申し上げます。

只今、卒業証書を授与いたしました百二十二名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。これまでの六年間、ずっと温かく生徒たちの成長を支援し、見守っていただいた学校評議員の方々、また、地域の方々に対しまして、この場をお借りしてお礼のことばを述べたいと思います。本当にありがとうございました。

皆さんは六年前、この四ツ葉学園中等教育学校の教育理念に賛同し、本校を選び入学してくれました。皆さんと出会い、共に学んだ六年間、私たちは四ツ葉学園での学びを、どれだけ心の中に深く残す事ができるだろうかと考えながら取り組んできました。なぜならば、四ツ葉学園での学びを基盤として、皆さん一人ひとりの人生が展開されていくことに対して、ここでの学びが極めて重要であると考えたからです。

近年、知識・情報・技術をめぐる変化の速さが加速度的となり、予測困難な時代に突入したと言われていています。このような時代だからこそ、学びに向かう力が大切であり、「Do educate yourself」、この姿勢が大切ではないでしょうか。つまり、自分を教育する最大の教育者は自分自身であるということです。学びとは、山に登ることと似ています。頂上までのルートを理解しても頂上には立てません。自分の足で一步一步登るより他に方法はあります。学びも同じで、結局は自分自身で何度も考え、一つ一つ答えを出すより他にはないのです。そして頂上まで登ると、視野は広がり今まで見えなかった世界が広がります。状況を高い視点から俯瞰的に捉えることができ、新しい解決方法を見つけることができるようになります。同時に、今までよりも高く険しい峰を目にすることにもなるでしょう。高い峰の先にある新しい世界に向かって、自分自身の開拓に向かって、意欲的にチャレンジを続けて欲しいと思います。このことは、本校が掲げる教育目標の「自学」とも重なります。

冬、放課後の教室や学習室などで学ぶ皆さんの姿は、真剣そのものでした。廊下で出会ったときに声を掛けると「今日は」や「元気です」と凛々しく笑顔を返してくれました。自らの進路実現に向けた歩みは、厳しい場面もあり、苦難を伴うものであったと思います。また、校内マラソン大会では、力を出し切り、ゴールに駆け込んでくる皆さん一人ひとりの真剣な姿、充実感に満ちた表情が印象に残っています。苦しいことや困難なことから逃げず全力で立ち向かう素晴らしい姿を、私は目に焼き付けてきました。皆さんには、学びに全力で取り組むエネルギーが十分に備わっていると確信しています。

皆さんがリーダーとして社会の中心となり活躍するのは、二十年後ないし三十年後でしょうか。そのころの世界の潮流はどうなっているのでしょうか。多くの仲間と知恵を出し合いながら解決策を求めていくような困難な課題が増えていくことでしょうか。皆さんに求められるのは、高度な専門知識や技能を身に付けること、何が課題であるのかを発見していくこと、解決困難な課題に対しても文化や価値観の異なる人たちとコミュニケーションをとりながら納得解を見つけ出ししていくことです。このことは、本校が掲げる教育目標の「共同」とも重なります。

五年生の海外グローバルリーダー研修では、持続可能な社会の構築に向けて、国際的な視野に立って、提案と協議を繰り返しながら解決策を見いだしていく、リーダーとしての資質や態度を学びました。この研修をとおして、積極的にコミュニケーションをとり、真剣に取り組む姿を見ながら、皆さんなら必ず、将来どのような場においても、周囲の人々の良さを引き出しながら、目的に向かって力を合わせ、課題解決に果敢に立ち向かっていくリーダーになれると確信しました。

人を上から見下ろすこともなく、下から見上げることもない人になってください。傲らず卑屈にもならず、常に人間としての誇りを持ち、他の人の人権も尊重できる人になってください。そして、この四ツ葉学園の学びの中で培った、一步前に踏み出す力を存分に発揮し、新しい未来を切り開いてください。

終わりにになりましたが、保護者の皆様にお礼とお祝いを申し上げます。お子様の卒業、誠にありがとうございました。六年間にわたりまして、本校の教育活動推進のために、温かいご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

また、ご多忙の中、ご臨席を賜りました来賓の皆様衷心からお礼を申し上げます。この先も、卒業生に対しまして、末永くご支援いただきたくお願い申し上げます。

結びに、卒業生の皆さんの限りない発展を心からお祈り申し上げ、式辞といたします。

